

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472201514
法人名	社会福祉法人 県央福祉会
事業所名	メールブルー 鶴沼
訪問調査日	平成19年11月21日
評価確定日	平成19年12月31日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 19年 11月 27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	第1472201514号
法人名	社会福祉法人 県央福祉会
事業所名	メールブルー鵜沼
所在地	藤沢市本鵜沼 3-13-2 (電話) 0466-33-5533

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成19年11月21日	評価確定日	平成19年12月31日

【情報提供票より】(平成19年10月22日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年 7月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	22	常勤 11人	非常勤 11人	常勤換算 7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	(木造)造り
	2階建ての (1)階 ~ (2)階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	72,000 ~ 95,000 円	その他の経費(月額)	38,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 750,000 円	有りの場合 償却の有無	有(3年)	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要 (11月21日 現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	4 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.6 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	湘南中央病院 鈴木デンタルクリニック
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームの事業主体は、ノーマライゼーションの理念の実現を目指し、障害分野を中心に、実績を持つ社会福祉法人です。そして、同法人が有する認知症高齢者を対象とする施設が当ホームです。  
当ホームの目指すことのひとつが、事業内容の内外に対する透明化です。ガラス張りのケアの実践等、全てにおいてオープンにすることです。また、当ホームが入居者の人生最後に暮らす生活の場となる事を目指し、医療関係者との連携を密にして「ターミナルケア」に積極的に取り組んでいます。その一環として報道された鎌倉市と慶応大学との協働による、医療・介護・福祉分野における情報技術を活用した「連携システムの構築」の研究に参画しています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題は、金銭(預り金)の定期的な報告の徹底でした。ノート(出納帳)を複写にすることにより、遅れる事無くスピーディーに処理出来るようになり、家族の方でも不足額の把握が早期に出来るようになっていきます。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>取組みの時間が諸般の事情で制約される中、過去の経験により評価の意義や理解が深まっており、今回の自己評価についても全体で話し合いながら取り組んでいます。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>平成18年9月の第1回運営推進会議から3~4ヶ月に1度の割合で開催されています。事業説明や活動報告がされるにつれ、地域の人々のグループホームに対する理解を深めて貰える格好の場となっています。入居者及び家族、民生委員、地区社協、老人クラブ、介護相談員等々、多くのメンバーとの意見交換がされていますが、とりわけ開所当初より関係がある民生委員の意見は、運営上の参考になっています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族会をホームの外で開催し、意見交換をしやすい雰囲気づくりに努めています。また、この家族同士の集まりをホームと家族との意見交換の場とすると同時に、ピアカウンセリングが機能する場としての位置付けもしています。玄関に設置された「心をつなぐ小箱」等の家族から寄せられる不満・苦情に対しては、発生要因を追及し、課題を検討した上で対応策を講じるなど、サービスの質の向上に繋げています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に参加しており、ゴミの当番やペットボトルの回収に協力するなど地域の一人としての役割を果たしています。また、日常生活とは異なるものの災害時に於いて、地域の方々の協力を仰ぐ一方で、当ホームの建物がその耐震性に優れていることから、一時避難所として使用可能であることも運営推進会議の席上で参加者に伝えていきます。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人がその人らしく自分の意思で地域で暮らす」という理念を掲げている。これには、この地・このホームを人生最後に暮らす生活の場として、「その時」までその人らしく、穏やかに、長く暮せるように、その方の「ありのまま」を積極的に受け容れる、との想いが込められている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	家族から「一人ひとりに目が行き届いて、きめ細かい対応をしてくれる」、「所長の理念が、スタッフにまできちんと通じていると思う」との声が寄せられる程に、理念を共有し、かつ理念の実践に向けて日々管理者と職員が取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加しており、盆踊りや敬老会の催しにも民生委員の力を借りながら地元の人々との交流に努めている。また、ゴミの当番やペットボトルの回収などで地域の一員としての役割も果たしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	「認知症介護指導者養成研修」の修了者でもある管理者の下、評価の意義とその理解は周知徹底されている。改善課題に対する取り組みや結果については、「メールブルー新聞」でも詳細が掲載されており、職員だけでなく家族等にも公表されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年9月に開催された第1回の運営推進会議も回を重ね、グループホームの理解を地域の人々に深めてもらう格好の場となっている。参加する地区社協、老人クラブ、介護相談員等々の中でも、特に長い経験を持つ民生委員の意見は、運営上の参考になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	16事業者が参加する市のグループホーム連絡会が市役所の会議室を使って2ヶ月に1度開催されている。行政側に対しては、事業者が抱えている実情や取組みを説明する一方で、行政側から要請される研修会の講師派遣依頼を受諾するなど、双方の連携が緊密にとれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	不定期ではあるが「メールブルー新聞」を発行しており、外部評価の結果やスタッフの様子なども報告し、家族等に向けて事業内容の透明化を図る姿勢が伺われる。また家族の面会の機会を捉えて、本人の暮らしぶりを伝えるなど個々に合わせた報告もしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会をホームの外で開き、意見交換がしやすい雰囲気づくりに努めている。また、この家族同士の集まりをピアカウンセリングの場としても位置づけている。寄せられる不満・苦情等については、発生要因の追求など十分な検討・対応を図り、運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動等は、当ホームが唯一の認知症高齢者施設であること、またその特性が考慮されて極力抑えられている。止むを得ず職員の交代をする際でも、「引継ぎ」に十分な時間をかけて入居者の不安等を防ぐ態勢準備が出来ている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業主体の社会福祉法人の研修はもとより、外部研修も受けられる機会を確保するなど積極的に人材の育成に取り組んでいる。研修には非常勤職員も参加しており、研修を受ける上での配慮も講じられている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が役員を務める県のグループホーム協議会や市のグループホーム連絡会に於ける研修、意見交換、ネットワークづくり等を通じて、同業者との交流を深めサービスの質の向上に繋げる取組みをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>急激な環境の変化が、高齢者、とりわけ認知症の高齢者に与えるダメージを熟知しており、不安等を抱かないよう細心の注意を払っている。また家族にも相談の上、出来る限り面会に来て貰えるよう協力を依頼している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事の準備・片付け等本人の意欲・自主性を重んじ、一方的な介助・介護に陥ることなく温かく見守っている。また生活の知恵として魚の上手な焼き方を学んだり、本人の経歴に敬意を表すると共に、何よりも人生の先輩として職員は尊敬の念を持って接している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に本人の生活歴・ライフスタイルを、本人や家族からよく聞き取り、入居後は言語コミュニケーション・非言語コミュニケーションの両面から、本人のニーズを把握し、本人の思いや体調にあった居心地のよい環境作り心にかけている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の生活の中から本人の様子と、家族・職員・関係機関が連絡を密に取り、本人の思いに即した介護計画を立てている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者一人ひとりの状態や変化を具体的に記録し、変化や希望があった場合必要に応じて介護計画の見直しを行っている。また半年に一回定期的に介護計画の見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望を聞き、常に化する状況に応じ柔軟な支援をしている。医療機関との連携も取れているので、安心した生活環境が確保されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週定期的に協力病院の内科・歯科往診を受けている。又体調の変化等緊急時にかかりつけ医師に24時間対応してもらえる体制が整っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意向や希望を聞き、家族・職員・関係機関がチームとなって対応方針を共有し、訪問看護師等の協力を得て終末ケアに積極的に取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に一人ひとりのプライバシー・誇りを損なわない対応がされている。また個人情報についても、他の家族・外来者への配慮が十分されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者各自の行動を束縛すること無く、体調・身体機能に合わせてその日のスケジュールを立て、本人の希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食・夕食の献立はその日の利用者の希望と健康状態によって決め、一緒に調理したり、食事中は職員も利用者の傍らで食事を楽しみながらさりげなくサポートしている。配膳・下膳・洗い物・片付け等も利用者自らが進んで行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの希望に合わせた介助・見守りで、安心してくつろいだ入浴ができるよう支援している。また入浴をを嫌がる利用者には、「ご家族がお風呂に入って待っていて下さいと言っていました」等、臨機応変に声掛けをして、職員の無理強いではない入浴支援がされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの趣向や、得手不得手を把握し、入居者が楽しめるレクリエーションを行ったり、好んで出来る家事・散歩等体調を考慮しつつ、張り合いや喜びのある日々を過ごせる支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望や気分転換の為に、買い物・散歩・ドライブに行ったり、利用者のお誕生日のお祝いに外食をする等の外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前に外に出てしまった事に気付かず、警察に捜索願いまで出した経緯から、ご家族から安心・安全を第一にして施錠して欲しいとの要望があり、玄関は施錠することにしている。しかし、その他の場所は利用者が自由に出入り出来るようになっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の対応マニュアルや、避難ルートがあり利用者も熟知していて、消防署との直通電話も設置している。さらに利用者の居室とリビングの扉は防火扉になっていて、設備点検・備品を定期的にチェックしている。緊急時の連絡体制にも万全を期している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事・水分の摂取量を健康管理チェック表に記入し把握している。摂取量が気になる利用者は、個別に食事・水分チェック表を作成して随時補食・補水を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホーム用に建てられているため、共用の場所は天井も高く広々としている。リビング兼食堂は、ミニコンサートを開く事が出来る程のゆったりしたスペースがあり、テレビを見たい人が他の利用者に気兼ねすること無く見ることが出来る。日当たりもよく利用者がゆったりとソファに腰掛けて日向ぼっこを楽しむ事が出来る程に心地よく過ごせる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた家具や身の回り品はもとより、昔に趣味で作られた手芸品・工芸品を置く等、本人が安心して居心地よく過ごせる工夫がされている。		

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人県央福祉会 メールブルー 鶴沼
(ユニット名)	B
所在地 (県・市町村名)	藤沢市本鶴沼3 - 13 - 2
記入者名 (管理者)	山下孝子
記入日	平成 19年 10月 20日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人がその人らしく自分の意思で地域で暮らすという理念を作り上げている。		
<input type="checkbox"/>	2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	必要と思われる際に随時伝えており、各フロアーに掲示し、職員間での話し合いができています。日々の声掛け・態度等にも意識付けがされており反映されている。		
<input type="checkbox"/>	3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関・各フロアー・事務所・宿直室に掲示し、初めて訪れるボランティアや見学者、家族会の際にも伝え理解していただいている。		
<input type="checkbox"/>	4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くのスーパーへの買い物・ホーム周辺の散歩等に積極的に外出、回覧板を回しに行くなど気軽に声を掛け合えるように努めている。		
<input type="checkbox"/>	5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加しており地元の人々と交流するように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議において、利用者の不安やプライバシーについて配慮しながら事業所内の成果を地域に伝えている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義とねらいについて話し合いながら自己評価に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入居者・家族・職員・民生委員・老人クラブ・介護相談員・地区社協をメンバーに会議を開催、話し合い事業所内の報告をするとともに意見をききサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>藤沢市グループホーム連絡会において実状やサービスの取り組みなどを伝えている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員は「成年後見制度」「地域福祉権利擁護事業」について学び入居者・家族に対して情報提供等をしている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人内研修において虐待防止関連法や虐待行為を発見した場合の対応法について学んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は重要事項説明を丁寧に行い、利用者の立場にたち十分な説明をしている。契約の改訂は入居者・家族に積算根拠を示し説明を行い家族会等で納得、同意を得ている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員の来訪を受け、入居者本人が率直に意見等を出しやすいように努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時には声をかけ状況報告をし、写真や作品を貼るなどして暮らしぶりをお伝えしている。心身の状況変化をきめ細かく報告している。金銭については出納帳を作り1ヶ月毎に締め報告を行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を設け家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。苦情は発生要因を探り課題の検討、質の向上をめざす取り組みをしている。</p>	<p>「やすらぎの家・心をつなぐ小箱」を玄関に設置し気軽に意見をだしてもらえるようにした。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングを開き職員の意見を聞く機会を持っている。職員の意見を反映させ質の向上につなげている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>24時間365日、本人を支えるローテーションを組みシフトは無理なくバランスよく作っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が代わる時には引継ぎの時間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に取り入れている。非常勤職員も研修に参加しており研修後はレポート作成等で理解を深め合っている。ミーティング時にも研修内容を他のスタッフに伝えている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会や市グループホーム連絡会においてネットワークを作り研修などを通じ交流や意見交換を行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃から話をききコミュニケーションをはかることにより、ストレスの軽減をはかっている。休憩時間は利用者を離れて休めている。		ミーティング時に個々が感じる不安やストレスを話し合う機会を設けた。(みんなで取り組もう！メンタルヘルスケア～介護の仕事での不安をとりのぞく～)
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日頃職員と話し、現場での状況の変化、職員の努力や成果を把握している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の思いを受け止めよく見聞きし、その人を知ろうとすることから始め信頼関係を築くことに努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の面接で十分に話をきき不安に思っていること困っていることを理解し、家族のニーズ・本人のニーズを考えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることや不安なことに対し今出来ることはすぐに実行し、必要に応じ他のサービス機関にもつなげている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が不安な気持ちを抱えぬよう、職員や他の入居者、場の雰囲気に徐々に馴染めるように対応している。また、今までの生活習慣をできるだけ継続できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者それぞれの得意なことを活かし日常生活での家事やレクリエーションなどで個性を発揮し、職員はともに過ごし入居者の思いを共感・理解している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会を通し家族との交流を持ちながら情報交換を密に行っている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時に本人の介護や散歩、レクリエーションなど家族と本人の時間を大切にし、職員は日々様子をこまめに伝えている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームに入居しても本人が今まで築いてきた人間関係を大切にし本人の希望に応じ連絡が取れるよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	フロア内で入居者同士が会話を楽しみやすいよう席を工夫したり入居者同士食器の片付けや声かけなどの助け合いやコミュニケーションを図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後も本人・家族が気軽に遊びに来てもらえるように、手紙や電話等で連絡を取り合い継続的な関係性を持つようにしている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言語コミュニケーション・非言語コミュニケーションの両面から本人のニーズを把握し居心地のよい環境作りに努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴やライフスタイルなどの情報を集めている。入居後も本人や家族との会話から本人の全体像を知るよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人一人の生活リズムを把握し心身の変化に注意し対応する。入居者の残存能力を活かした支援を心がけできるところをみつけ日々の生活にメリハリをつけた支援を行っている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の本人の様子と家族・職員・関係機関が密に連絡を取り合い総合的な観点で介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者一人一人の特徴や変化を具体的に記録しその状態や変化を具体的に記録しその状態の変化に応じた介護計画作成を行い必要に応じまたは定期的に見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で入居者の様々な様子に着目し具体的な個別記録を記入し職員間で情報を共有、対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の話をきき、要望に応じて必要な支援をし本人と家族にとってよりよいサービスを提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者が地域で生き生きと生活していけるよう周辺地域の諸施設への理解を拡げる働きかけやボランティアの受け入れを行い交流を図っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人と家族の意思や日々の様子に伴い必要に応じ当事業所以外のサービスへもつなげられるよう他機関との連携を図っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人・家族の抱えた問題の内容によって当事業所以外へ移行できるよう地域包括支援センターをはじめ他機関とのネットワークを持ち協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診をはじめ緊急時や体調の変化の際、24時間かかりつけの医師が対応してくれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけの専門医と連携をとり、治療や医療の対応や相談にのってもらいながら支援を行っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	定期的な看護師の来所により入居者の様子を伝え相談や対応をしている。入居者の状態に応じ訪問看護ステーションとの連携をとっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、本人の状態や様子などの情報をこまめに確認し早期退院にむけた話し合いをし医療機関と連携をとっている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意向、考えをきき今後どのように対応していくべきかを話し合い、本人・家族・職員・各関係機関がチームとなり方針を共有している。		研修等にも参加しグループホームでの終末期ケアに取り組んでいる。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人がよりよく毎日を過ごせるよう支援方法を考えかかりつけ医、看護師と協働し支援に取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい場所でも不安にならないように使い慣れた家具や物の配置や以前から行っている習慣などを極力継続できるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉掛けや対応を行い、他の家族や外来者への配慮もしている</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>入居者の残存能力を大切にしながらそれらを促す取り組みを意識し支援している。また本人にあわせた伝え方を心がけている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮せるようにその日のスケジュールをたて本人の希望に沿った支援をしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の意思・希望をきき家族にも聞き取りをしながら身だしなみを整えられるようにサポートしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備や片付けを一緒に行うことや食事中に入居者の傍に付き添いながら、一緒に食事を楽しんだりさりげなくサポートを行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのお酒、飲み物、おやつ、たばこ等を一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入居者の嗜好の把握に努め、食べたいものをきき献立に取り入れたり一緒に買い物にでかけ、選んでもらっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握しトイレのサインを感じ取った際さりげなくトイレ誘導を行っている。オムツ利用の方には記録を確認しながら交換を行いおむつかぶれなどに注意している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に合わせてくつろいだ入浴ができるように支援し介助や見守りによって事故のないよう配慮している。入浴を拒む方には声かけの工夫等をしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の様子や本人の意思を尊重し本人が落ち着ける場所を提供したり話し相手となって対応している。場合によって、医師・家族と相談し薬剤の服用をおこなっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で入居者が参加できるレクリエーションを行ったり、好んでできる家事などをしていただいている。行事での外出、近隣への買い物、ドライブ、散歩を行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や力に応じ金銭管理の支援を行っている。職員と買い物へ出かけたり、販売に来るパン屋から本人が選んだパンを購入できるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人一人の希望や気分転換の為に買い物・カラオケ・外出・散歩など気軽に外出できるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人、家族の要望をきき企画をし日時や当日のスケジュールを考えて外出がスムーズに行えるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・FAX・手紙など気軽に出来るように支援している。帰宅願望による電話等は家族と対応について連携をとり支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や本人の馴染みの人たちが面会に来ることを快く迎え、ゆっくりと本人との時間を過ごせるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修に参加し、身体拘束によって受ける身体的・精神的弊害を理解し拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	必要な場所のみ施錠し入居者が自由に過ごせるようにしている。入居者の所在も職員が把握できる工夫をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の様子を意識しながら、入居者が危険な場所へ向かったとき危険物をどかしたり安全な場所へ誘導し事故のないように努めている。		階段扉にベルをつけて、1階への出入り等職員が気づけるようにしている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況に合わせ注意が必要な物品の管理を行いミーティングや日々の業務で対応を考えている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状態に合わせ事故防止策を職員間で話し合い対応。ヒヤリハットの記入や記録に詳細に記入し対応している。		ヒヤリハットを読み合わせ職員間で意識を高めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命法の学習と緊急時マニュアルの作成を行っている。夜間の緊急時連絡の職員を決め対応している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・地震等の災害時の対応マニュアルや避難ルートがあり熟知している。設備点検・備品も定期的にチェックしている。		災害時に避難の必要がある地域の高齢者を受け入れる体制を作っていく。町内会の訓練等にも参加する。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクに対して日々の様子や支援内容をミーティングなどで話し合い、家族にも伝え話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの持病を把握した上で日々の健康チェックや様子を介護記録に記し状態の変化に注意し支援し、状況に応じてかかりつけ医師に連絡している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況のチェックや処方箋のファイリング・内容の把握を服薬準備等しながら確認している。また変更時には申し送り様子の変化を記録している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ヤクルトやヨーグルト等の乳製品を出している。健康チェックをつけ便秘の早期対応を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内清潔保持について職員が認識しており毎食後の口腔ケアを行っている。定期的な歯科往診もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事量・毎食事時の水分量を把握し健康チェック表に記入。摂取量の気になる方には個別にチェック表を作成し、不足気味の時には随時捕食・補水を行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルがあり職員に周知されている。病院や保健所の勉強会にも積極的に参加しており新しい知識を得ている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所を清潔にしており調理器具等は1日1回熱湯消毒、ハイター消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	開放的で明るい玄関周りで植樹を行ったり内外の人々が入りしやすい雰囲気がある。スロープ・手すりが設置しており、階段が見えやすいように色をつけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は目に優しい明るさにしテレビや音楽も利用者の希望に応じ居間には季節の草花を生けたりしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い居間で思い思いに過ごせ、入居者同士の関係性等に配慮した居場所作り環境作りを心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・食器・寝具等を持ち込んでいただき安心して居心地よく生活していただいている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓が多く空気の換気には常に配慮しており温度調節にも配慮している。入居者の様いる子にもこまめに気遣い一人ひとりの状態に配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置がされており身体機能の変化等にあわせ車椅子や歩行器を個人の状態に合わせてとりいれている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立して暮らせるように工夫し混乱を招くような状況になっていない。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランター・鉢植え等を置かれたり庭の散策、季節の果物などをとるなど楽しまれている。ベランダに物干しを置いている方もいる。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

お一人ずつの個性を大切に、その気持ちや状態にあわせて個別にケアをおこなっている。また、人生最後に暮らす生活の場として、「その時」まで、その方らしく穏やかに、できるだけメールブルーで長く暮らせるように努力をしている。医師・看護師と連携をし、ご家族の様々な思いを受け止め共有している。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人県央福祉会 メールブルー 鶴沼
(ユニット名)	A
所在地 (県・市町村名)	藤沢市本鶴沼3 - 13 - 2
記入者名 (管理者)	山下孝子
記入日	平成 19年 10月 20日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人がその人らしく自分の意思で地域で暮らすという理念を作り上げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	必要と思われる際に随時伝えており、各フロアーに掲示し、職員間での話し合いができています。日々の声掛け・態度等にも意識付けがされており反映されている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関・各フロアー・事務所・宿直室に掲示し、初めて訪れるボランティアや見学者、家族会の際にも伝え理解していただいている。		
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くのスーパーへの買い物・ホーム周辺の散歩等に積極的に外出、回覧板を回しに行くなど気軽に声を掛け合えるように努めている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加しており地元の人々と交流するように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議や、介護相談員の訪問時に、利用者の不安やプライバシーについて配慮しながら事業所内の成果を地域に伝えている。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の意義とねらいについて話し合いながら自己評価に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>入居者・家族・職員・民生委員・老人クラブ・介護相談員・地区社協をメンバーに会議を開催、話し合い事業所内の報告をするとともに意見をききサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>藤沢市グループホーム連絡会において実状やサービスの取り組みなどを伝えている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員は「成年後見制度」「地域福祉権利擁護事業」について学び入居者・家族に対して情報提供等をしている。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人内研修において虐待防止関連法や虐待行為を発見した場合の対応法について学んでいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は重要事項説明を丁寧に行い、利用者の立場にたち十分な説明をしている。契約の改訂は入居者・家族に積算根拠を示し説明を行い家族会等で納得、同意を得ている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員の来訪を受け、入居者本人が率直に意見等を出しやすいように努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時には声をかけ状況報告をし、写真や作品を貼るなどして暮らしぶりをお伝えしている。心身の状況変化をきめ細かく報告している。金銭については出納帳を作り1ヶ月毎に締め報告を行っている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会を設け家族同士の集まりの場で意見を出せるような仕組みを作っている。苦情は発生要因を探り課題の検討、質の向上をめざす取り組みをしている。</p>	<p>「やすらぎの家・心をつなぐ小箱」を玄関に設置し気軽に意見をだしてもらえるようにした。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングを開き職員の意見を聞く機会を持っている。職員の意見を反映させ質の向上につなげている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>24時間365日、本人を支えるローテーションを組みシフトは無理なくバランスよく作っている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が代わる時には引継ぎの時間を十分に取り、スムーズに移行できるように配慮している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に取り入れている。非常勤職員も研修に参加しており研修後はレポート作成等で理解を深め合っている。ミーティング時にも研修内容を他のスタッフに伝えている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協議会や市グループホーム連絡会においてネットワークを作り研修などを通じ交流や意見交換を行っている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日頃から話をききコミュニケーションをはかることにより、ストレスの軽減をはかっている。休憩時間は利用者を離れて休めている。		ミーティング時に個々が感じる不安やストレスを話し合う機会を設けた。(みんなで取り組もう！メンタルヘルスケア～介護の仕事での不安をとりのぞく～)
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日頃職員と話し、現場での状況の変化、職員の努力や成果を把握している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の思いを受け止めよく見聞きし、その人を知ろうとすることから始め信頼関係を築くことに努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の面接で十分に話をきき不安に思っていること困っていることを理解し、家族のニーズ・本人のニーズを考えている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	困っていることや不安なことに対し今出来ることはすぐに実行し、必要に応じ他のサービス機関にもつなげている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が不安な気持ちを抱えぬよう、職員や他の入居者、場の雰囲気に徐徐に馴染めるように対応している。また、今までの生活習慣をできるだけ継続できるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者それぞれの得意なことを活かし日常生活での家事やレクリエーションなどで個性を発揮し、職員はともに過ごし入居者の思いを共感・理解している。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や家族会を通し家族との交流を持ちながら情報交換を密に行っている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時に本人の介護や散歩、レクリエーションなど家族と本人の時間を大切にし、職員は日々様子をこまめに伝えている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームに入居しても本人が今まで築いてきた人間関係を大切にし本人の希望に応じ連絡が取れるよう支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	フロア内で入居者同士が会話を楽しみやすいよう席を工夫したり入居者同士食器の片付けや声かけなどの助け合いやコミュニケーションを図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居された後も本人・家族が気軽に遊びに来てもらえるように、手紙や電話等で連絡を取り合い継続的な関係性を持つようにしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言語コミュニケーション・非言語コミュニケーションの両面から本人のニーズを把握し居心地のよい環境作りに努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴やライフスタイルなどの情報を集めている。入居後も本人や家族との会話から本人の全体像を知るよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者一人一人の生活リズムを把握し心身の変化に注意し対応する。入居者の残存能力を活かした支援を心がけできるところをみつけ日々の生活にメリハリをつけた支援を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の本人の様子と家族・職員・関係機関が密に連絡を取り合い総合的な観点で介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者一人一人の特徴や変化を具体的に記録しその状態や変化を具体的に記録しその状態の変化に応じた介護計画作成を行い必要に応じまたは定期的に見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で入居者の様々な様子に着目し具体的な個別記録を記入し職員間で情報を共有、対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の話をきき、要望に応じて必要な支援をし本人と家族にとってよりよいサービスを提供している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者が地域で生き生きと生活していけるよう周辺地域の諸施設への理解を拡げる働きかけやボランティアの受け入れを行い交流を図っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人と家族の意思や日々の様子に伴い必要に応じ当事業所以外のサービスへもつなげられるよう他機関との連携を図っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人・家族の抱えた問題の内容によって当事業所以外へ移行できるよう地域包括支援センターをはじめ他機関とのネットワークを持ち協働している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期往診をはじめ緊急時や体調の変化の際、24時間かかりつけの医師が対応してくれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけの専門医と連携をとり、治療や医療の対応や相談にのってもらいながら支援を行っている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	定期的な看護師の来所により入居者の様子を伝え相談や対応をしている。入居者の状態に応じ訪問看護ステーションとの連携をとっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、本人の状態や様子などの情報をこまめに確認し早期退院にむけた話し合いをし医療機関と連携をとっている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族の意向、考えをきき今後どのように対応していくべきかを話し合い、本人・家族・職員・各関係機関がチームとなり方針を共有している。		研修等にも参加しグループホームでの終末期ケアに取り組んでいる。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人がよりよく毎日を過ごせるよう支援方法を考えかかりつけ医、看護師と協働し支援に取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい場所でも不安にならないように使い慣れた家具や物の配置や以前から行っている習慣などを極力継続できるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した言葉掛けや対応を行い、他の家族や外来者への配慮もしている</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者の残存能力を大切にそれらを促す取り組みを意識し支援している。また本人にあわせた伝え方を心がけている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮せるようにその日のスケジュールをたて本人の希望に沿った支援をしている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の意思・希望をきき家族にも聞き取りをしながら身だしなみを整えられるようにサポートしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備や片付けを一緒に行うことや食事中に入居者の傍に付き添いながら、一緒に食事を楽しんだりさりげなくサポートを行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入居者の嗜好の把握に努め、食べたいものをきき献立に取り入れたり一緒に買い物にでかけ、選んでもらっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握しトイレのサインを感じ取った際さりげなくトイレ誘導を行っている。オムツ利用の方には記録を確認しながら交換を行いおむつかぶれなどに注意している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に合わせてくつろいだ入浴ができるように支援し介助や見守りによって事故のないよう配慮している。入浴を拒む方には声かけの工夫等をしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の様子や本人の意思を尊重し本人が落ち着ける場所を提供したり話し相手となって対応している。場合によって、医師・家族と相談し薬剤の服用をおこなっている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で入居者が参加できるレクリエーションを行ったり、好んでできる家事などをしていただいている。行事での外出、近隣への買い物、ドライブ、散歩を行っている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や力に応じ金銭管理の支援を行っている。職員と買い物へ出かけたり、販売に来るパン屋から本人が選んだパンを購入できるよう支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人一人の希望や気分転換の為に買い物・カラオケ・外出・散歩など気軽に外出できるように支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人、家族の要望をきき企画をし日時や当日のスケジュールを考えて外出がスムーズに行えるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・FAX・手紙など気軽に出来るように支援している。帰宅願望による電話等は家族と対応について連携をとり支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や本人の馴染みの人たちが面会に来ることを快く迎え、ゆっくりと本人との時間を過ごせるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は研修に参加し、身体拘束によって受ける身体的・精神的弊害を理解し拘束のないケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	必要な場所のみ施錠し入居者が自由に過ごせるようにしている。入居者の所在も職員が把握できる工夫をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の様子を意識しながら、入居者が危険な場所へ向かったとき危険物をどかしたり安全な場所へ誘導し事故のないように努めている。		歩行不安定な方には居室ドア、歩行器、ベッド周り等に鈴をつけて職員が気づけるようにしている。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の状況に合わせ注意が必要な物品の管理を行いミーティングや日々の業務で対応を考えている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の状態に合わせ事故防止策を職員間で話し合い対応。ヒヤリハットの記入や記録に詳細に記入し対応している。		ヒヤリハットを読み合わせ職員間で意識を高めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命法の学習と緊急時マニュアルの作成を行っている。夜間の緊急時連絡の職員を決め対応している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・地震等の災害時の対応マニュアルや避難ルートがあり熟知している。設備点検・備品も定期的にチェックしている。		災害時に避難の必要がある地域の高齢者を受け入れる体制を作っていく。町内会の訓練等にも参加する。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクに対して日々の様子や支援内容をミーティングなどで話し合い、家族にも伝え話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの持病を把握した上で日々の健康チェックや様子を介護記録に記し状態の変化に注意し支援し、状況に応じてかかりつけ医師に連絡している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬状況のチェックや処方箋のファイリング・内容の把握を服薬準備等しながら確認している。また変更時には申し送り様子の変化を記録している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ヤクルトやヨーグルト等の乳製品を出している。健康チェックをつけ便秘の早期対応を行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔内清潔保持について職員が認識しており毎食後の口腔ケアを行っている。定期的な歯科往診もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事量・毎食事時の水分量を把握し健康チェック表に記入。摂取量の気になる方には個別にチェック表を作成し、不足気味の時には随時捕食・補水を行っている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染防止マニュアルがあり職員に周知されている。病院や保健所の勉強会にも積極的に参加しており新しい知識を得ている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所を清潔にしており調理器具等は1日1回熱湯消毒、ハイター消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	開放的で明るい玄関周りで植樹を行ったり内外の人々が入りしやすい雰囲気がある。スロープ・手すりが設置しており、階段の段差が見えやすいように色をつけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は目に優しい明るさにしテレビや音楽も利用者の希望に応じ居間には季節の草花を生けたりしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い居間で思い思いに過ごせ、入居者同士の関係性等に配慮した居場所作り環境作りを心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具・食器・寝具等を持ち込んでいただき安心して居心地よく生活していただいている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓が多く空気の換気には常に配慮しており温度調節にも配慮している。入居者の様いる子にもこまめに気遣い一人ひとりの状態に配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置がされており身体機能の変化等にあわせ車椅子や歩行器を個人の状態に合わせてとりいれている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自立して暮らせるように工夫し混乱を招くような状況になっていない。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランター・鉢植え等を置かれたり庭の散策、季節の果物などをとるなど楽しまれている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

お一人ずつの個性を大切に、その気持ちや状態にあわせて個別にケアをおこなっている。また、人生最後に暮らす生活の場として、「その時」まで、その方らしく穏やかに、できるだけメールブルーで長く暮らせるように努力をしている。医師・看護師と連携をし、ご家族の様々な思いを受け止め共有している。